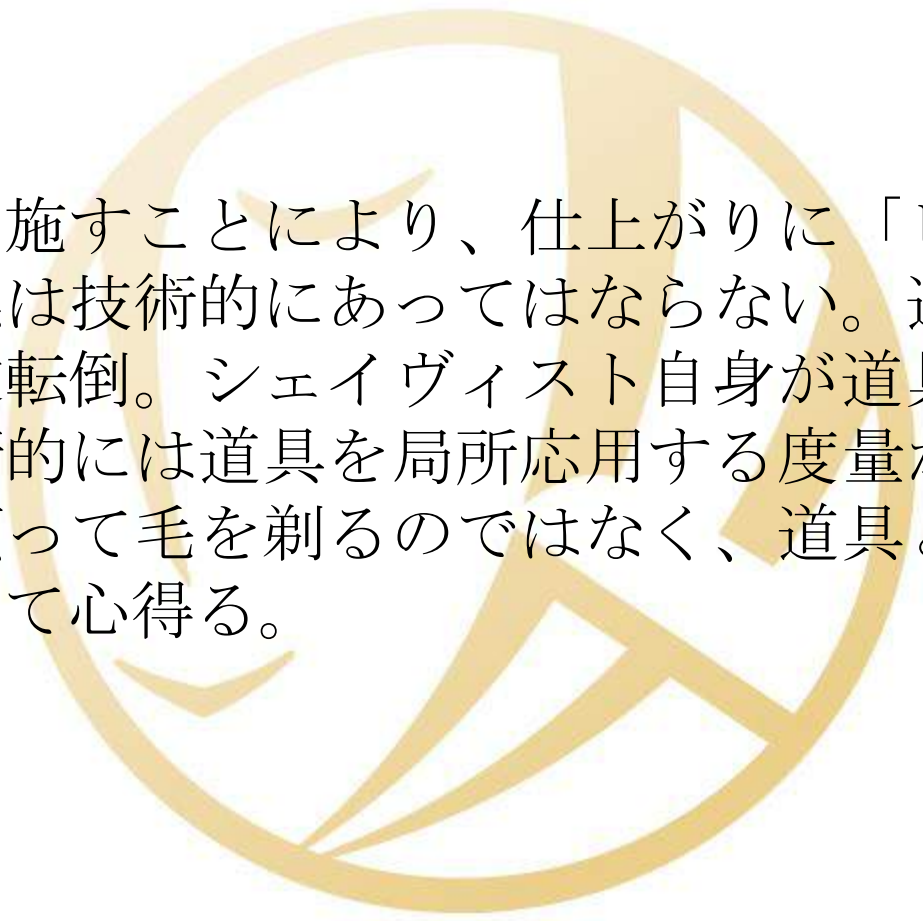


実践
講座

替刃と皮膚のメカニズム 素肌ヒリヒリ学

Web Study Series vol.9

シェービングビューティ伝道家
吉田昌央

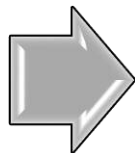


確かなシェービングを施すことにより、仕上がりに「ヒリヒリ感」や「剃り残し」などという事態は技術的にあってはならない。道具が便利になり過ぎて技能が未熟では本末転倒。シェイヴィスト自身が道具の特性や善し悪しを吟味し、見極め、技術的には道具を局所応用する度量が一層求められます。プロならば、道具に頼って毛を剃るのではなく、道具と技術が一体となって毛を剃るのだ、と改めて心得る。

「ヒリヒリする」皮膚上のメカニズム

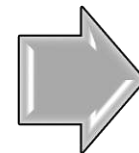
【要因】

強い力加減、素早く剃る、
多重運行など



【現象】

表皮1/4、0.05mm以上、
物理的に削られる



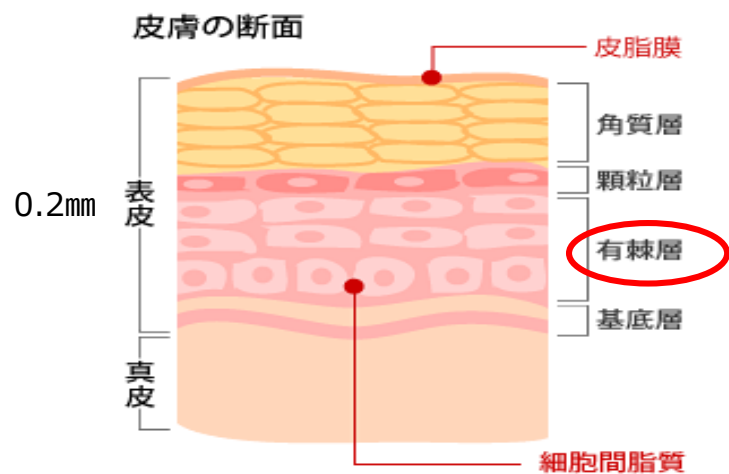
【結果】

有棘層が露呈して
空気、外気に触れる



【実感】

無出血のヒリヒリ感が
生じる、医学的に証明済



「あたりの強さ」の
実態は有棘層まで
削っていること！

「肌を切る」「血がふく」とは..

【要因】

力強い運行
多重剃り

【現象】

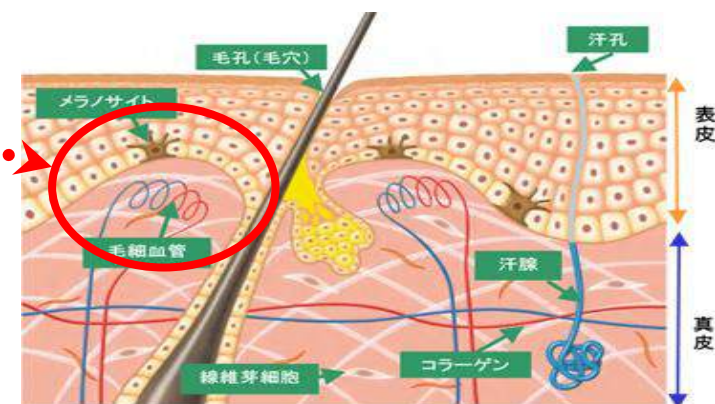
乳頭層上部
毛細血管の
最末端が損傷

【結果】

ループ状の
動脈と静脈から
血圧0で出血

【実感】

血が滲み出る
擦り剥いたような
傷に



替刃厚0.25mm 刃の出1.2mm 刃先R0.05μ
替刃の弾性(しなり)は働きにくい

ヒリヒリ線!

血がふく線!



毛孔付近は乳頭層が波打ち状にうねり表皮にまで進入する
乳頭層は真皮の最上層であり毛細血管の最末端が走る



最近では脱毛関連の思わぬ弊害も頻出します。「襟足の脱毛」はいただけません。髪をアップスタイルにすると現れる「M字型」の美しい三つ襟ラインを、横一直線に脱毛してしまうケースです。人目につく部位なので、見た目には間の抜けた印象を覚えます。

全身脱毛の人気をうかがい知れますが、これは施術する側にも問題があります。日本女性の襟足について、文化的背景や美観が抜け落ちており、どう形作るかすら知らないのです。

誰も教えてくれない真実 失せてはならない矜持がある。

- それにしてもまだまだ懐疑的な目。「女子がシェービングするなんてもっての外」と息巻く女性に限って「脱毛」主義者が多い。どちらが好きかは美の趣味嗜好の問題ですが、解せないのは、永久脱毛を好む女性から一方的にシェービングを悪者呼ばわりされることです。「シェービングは毛が濃くなるし肌を傷めるから絶対ヤダ。やりたい女性ってホントにいるの?」というものです。ハッキリ言って偏見ですね。
- 理容師は脱毛のプロではありません。ですが、脱毛技術やそれに伴う器具が日々進歩する様は、一応承知しています。芸人を起用したプロモーションなども普通に目にするし、「脱毛100円」なんて広告は経営的に疑います。あわせてシェービングとの相性にも気を払い「脱毛」「ピーリング」をはじめとする肌にストレスを与える他社施術との組み合わせには、とくに警戒しています。
- 美の趣味嗜好は何をもって是とするか。それは「どれだけその人が望む美しさに近づけられるか」に対して「どれだけ人体に負担を与えずに施術できるか」美容技術全般に言えるのはこの2点でしょう。多少痛くても、多少肌が赤くなっても、多少劇薬品を塗られても、キレイになればそれでいい。結果を最優先にすると心地よさとは無縁の施術になります。毛を「抜く」「焼く」「ちぎる」のが脱毛の実態だとすれば、語尾に「心地よさ」は付けづらい。（抜き心地、焼き心地、ちぎり心地とは言わないでしょう）一般的なムダ毛処理の中で、施術過程そのものが爽快で気持ちがいイ「剃り心地」とは唯一、シェービングに内包する価値観です。
- ヒリヒリするシェービング、顧客の男女を問わずこれだけは絶対に避けなくてはなりません。多種多様に変遷する「剃る道具」の性能を知り得、研磨不要の時代にこそ研ぎ澄ますのは「技術」と「心遣い」なのです。



AMAZING SHAVIST

Copyright (C) Shaving Beauty LLC.YOSHIDA PROJECT. All Rights Reserved.